

授業カブラッシュアップ®研修会Ⅲ

11月21日(火)に実施した小学校道徳科の授業カブラッシュアップ研修会の様子を紹介します。学習指導要領の改訂を踏まえ、小学校では来年度から本格実施となる道徳科の授業や評価はどうあればよいかをテーマに、提案授業・講演を実施しました。

小学校 道徳科

道徳的問題を主体的・対話的に解決する中で、道徳的価値を理解し、自己の生き方を考える授業の構想

(1)提案授業

主題名：「よりよい学校づくり」第6学年【C(16)よりよい学校生活、集団生活の充実】

教材名：「せんばいの心を受けついで」

授業者：一関市立金沢小学校 教諭 佐々木 香澄

助言者：秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威 先生



★児童が道徳的問題に対して自己との関わりで捉え、課題意識をもつことができるようにするための導入の在り方

事前に道徳的価値に関するアンケートをとり、導入場面でその結果を児童に提示した。児童が記述した内容や数値で表した結果から考えられることについて話し合う中で、「これでいいかな。」といった問い返しをすることで、「学校をよりよくしていくために大切なことは何かを考えていこう。」という課題につなげた。

★児童が道徳的価値に対して多面的・多角的に考え、道徳的価値の理解を深めていけるような話合いの在り方



中心場面で、登場人物の心情が変化するきっかけとなる行動や言葉、これまでの心の動きについて確認した上で、まず、学習プリントを使って自分の考えを書く時間を保障した。次に、小グループによる話合いを設定し、交流する中で自分の考えを捉え直し、必要に応じて加筆したり修正したりするよう促した。その後の全体での話合いでは、出された考えを板書で整理したり発言を捉えながら関連付けたりすることで、価値につながる考えを深められるようにした。

また、学んだことを基にして、価値について生活との関わりの中で考えられるように、6年生としてのこれからの自分の行動について考えを交流する場面も設定した。

★児童が課題に立ち返り、道徳的問題に対する自分自身の考えの変容や価値理解の深まりを自覚できる振り返りの在り方

本時の課題と事前アンケートの内容を再確認し、その上で、学習から考えが深まったことや考えが変わったこと、これからの生活に生かしたいことといった観点で学習プリントに振り返りを記述し、発言内容を価値付けした。

【助言より】

登場人物の心情に自我関与させるということは、自分たちの日常生活をひも解くことである。内容項目について、児童の言葉で日々の生活を基にしながらかも解いていくことが、価値理解につながる。



(2)講演「特別の教科 道徳(道徳科)」の展開と評価」 講師：秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威 先生



1 道徳科の評価について

- 道徳科の評価には、児童を認め励ますとともに、教師の指導改善につなげるといふ二つの意義がある。(指導と評価の一体化)
- 児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行う。
- 内容項目ごとでなく、大きくくりなまとまりを踏まえて、多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること。

2 学習指導の多様な展開と授業への取組

- 登場人物への自我関与、問題解決的な学習、体験的な活動、これらは多様な指導法の一例であり、それぞれ独立した指導の型を示しているものではない。それぞれの要素を組み合わせた指導も考えられる。

- 考え、議論する学習を通して児童が気づき、発見し、価値理解、人間理解、他者理解を納得解(自分が納得でき周囲の納得も得られる解)でもって深めていく道徳授業を構想していくことが大切である。